

令和5年度山口県産業労働懇話会の概要について

1 開催日時

令和5年11月16日（木）13:30～15:00

2 開催場所

県庁4階 共用第4会議室

3 出席者

労働者代表 長山委員、横山委員、倉重委員、田中委員、船岩委員
使用者代表 宮川委員、中野^(光)委員、阿野委員、青村委員
学識経験者 中野^(恵)委員、川村委員、吉村委員、山野上委員、添田委員
(以上15名中14名出席)

4 内容

「仕事と子育て等の両立支援について」をテーマとして意見交換を行った。

《主な意見等》

- ・年収の壁・支援強化パッケージについては、いつまでと予定されているか。抜本的な問題解決にはならないのではないかと。
- ・キャリアアップ助成金があるが、結局助成金を申請するのは事業主であり、企業側に申請する手間がかかる。なるべく申請を簡素化し、企業に負担がかからないようにしてほしい。
- ・仕事と子育ての環境整備という視点も重要と考える。子供を預けて安心して仕事ができる環境整備、保育所サービスの充実として、休日開所や延長保育、夜間保育所等、県だけではなく国・市町と一体となって連携して取り組んでいただきたい。
- ・男性の育児休業については、県は30%の取得率を目標とされているが、男性が子育てに慣れていない。ぜひ男性に対して子育てのノウハウの支援をしていただきたい。
- ・旅館では、人材が不足している状況であり、リモートワークも難しい。そのため男性の育児休業もなかなか進められない現状がある。そういう面のサポートが何かあればと思う。
- ・男性が育児休業を取得しても、家にいるだけでは子育て支援にならない。育児を一緒にするんだということを、育休を取得する前にしっかり伝えていくことが重要ではないか。
- ・医療現場の立場で見ると、女性は出産後に、産後うつを発症する方もいる。産後を支える体制として、一番身近な夫にサポートしてもらえるような体制が必要と思う。
- ・固定的性別役割分担意識について、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方が、県では全国平均レベルとほぼ同じであり、これが女性の離職率に密接に関わっているのではないかと。この意識を変えていくことはとても難しいが大変重要と思う。
- ・仕事と子育ての両立支援として、家庭環境に合わせた多様な働き方が可能な労働環境が、重要であると考えている。その一つの方法がテレワークと思うが、山口県の状況は全国平均よりもかなり低い。
- ・育児休業を取得した場合の影響を考えると、全体の仕事量は変わらないが、他の社員への負担が増加することが取得しにくい理由となっていると思う。ぜひ負荷がかかる社員への支援を進めていただければと思う。